



ダムが自然環境にあたる影響って何なの

土砂がダムにたまり、下流に影響をあたえる

ダムは、川の上流部で洪水を調整し、下流の平野部に水害が起こらないようにするはたらきがあります。また、ダムの水は、飲料水などの生活用水、農業用水、工業用水、発電などにも利用されています。

ダムは、大きな施設のため、川を改修する工事などに比べて、とても大規模な工事になります。造られたダムは、人間にとって、重要なはたらきをしますが、逆に、川へあたえる影響も大きいのです。

ダム湖は、上流から土砂が流れこみ、土砂がたまりやすい性質があります。そうすると、ダム湖がためることができる水の量が、減ってしまいます。

また、ダム湖の湖水が富栄養化現象（水中の栄養物質が豊かで、プランクトンが多く、水は黄緑色になる）を起こして、水道水に使うのに、とても困ることになります。

さらに、川の下流部で、建設用に砂利などが取り去られると、川の河口部に土砂がいなくなってしまうので、河口付近の海岸がこわれてしまう現象が起こります。

住んでいた村がダムの底にしずむ

巨大ダムを造るとなると、それまで川ぞいにあった集落が、ダムの底にしずむことになり、多くの村人たちは、引っこさなければなりません。

今では、ダム造りのプランが発表になると、ダムが必要であるという人と、必要ではないという人に、意見が分かれ、さかんに討論が行われます。（監修・保岡 孝之）

